

## 地層処分セミナーin 大津 開催結果

日 時：2016年9月17日（土）13：30～16：30

場 所：ピアザ淡海（滋賀県立県民交流センター）207会議室（滋賀県大津市）

後 援：経済産業省・資源エネルギー庁、日本経済団体連合会、日本商工会議所、経済同友会、全国商  
工会連合会、電気事業連合会、関西電力株式会社

参加者数：33名

プログラム：

（1）映像（DVD「地層処分とは」）

（2）説明 専門家、NUMO

■専門家（敬称略）

長田 昌彦（埼玉大学大学院 理工学研究科環境科学・社会基盤部門准教授、  
総合資源エネルギー調査会 地層処分技術ワーキンググループ委員）

丸井 敦尚（産業技術総合研究所地圏資源環境研究部門 総括研究主幹  
総合資源エネルギー調査会 地層処分技術ワーキンググループ委員）

（3）質疑応答（主な内容）

Q. 放射性廃棄物を他の国で処分することはできないか。

A. IAEAの放射性廃棄物管理に関する条約（使用済燃料管理及び放射性廃棄物管理の安全に関する条約）において自国で発生した廃棄物は自国で処分することになっている。また、原子力先進国である日本としては、他国に委ねるのでなく自国内で責任ある処分をするべきだと考える。

Q. 処分場は何ヶ所作るのか。

A. ガラス固化体を40,000本以上埋設処分できる施設を1ヶ所建設したいと考えている。

Q. それは何に定められているのか。

A. 最終処分法に基づいて作成される国の最終処分計画。

Q. ロンドン条約で海洋投棄できないのは分かったが、海岸沿いの陸地から海に向けて掘るのはだめなのか。

A. 沿岸海底下での地層処分については、地下水の動きが遅いことが期待できること、地下水が海水だった場合の影響評価が必要なこと等から、オプションとして国の研究会で検討され、技術的には可能であるとの結論が出されている。

Q. 地層処分は地下300m以深とのことだが、具体的な数値は決まっているのか。

A. 候補地域の調査結果を踏まえて、我々の生活環境からしっかり隔離するための技術的検討を経て、具体的な深度を検討することとしており、現在のところ決まっているものではない。

Q. 六ヶ所村で中間貯蔵されたガラス固化体は処分場へはどのように運搬されるのか。輸送中に事故が起こっても大丈夫なのか。

A. 海上輸送が一般的な考え方。港から処分場までは専用トレーラーで陸上輸送する。ガラス固化体の運搬に使用される輸送容器は放射性物質の閉じ込めや遮蔽のための厳しい基準に基づき製造される。

Q. ベントナイトは簡単に手に入るのか。世界的にも地層処分に使われているのか。

A. ネコの排便処理用の砂や化粧品等、身近なところでも使用されている。世界各国とも地層処分にベントナイトを使用する計画である。

Q. ベントナイトは国内でどれくらい使われ、国内でどれくらい採れるのか。

A. 年間65万t使われている。このうち国内で50万t生産され、残りは輸入。

Q. スウェーデン等先進事例の情報はつかんでいるのか。

A. 各国の事業主体や日本原子力研究開発機構等と技術協定を締結し、情報共有しており、NUMOが得た知見については積極的に情報発信している。

以 上